

## 【様式1】

## 令和6年度 授業改善推進プラン

## 東久留米市立南中学校 第2学年

教科	学力に関する各調査に基づく生徒の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)	次年度に向けた 自己評価 (A・B・C)
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を書くことに苦手意識があり、長文を書くことが難しい生徒が全体の10%ほど見られる。</li> <li>漢字や語句の習得に課題がある生徒が15%ほど見られる。</li> <li>スピーチ等、発表することに対し苦手意識をもつ生徒が15%ほど見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎週1回を目標に200字程度の文章を書き、長文を書くことに慣れさせる。</li> <li>毎時間漢字練習の課題を出し、学習内容の達成率80%以上を目指す。</li> <li>ひと月に一回程度グループ発表を実施し、各学期ごとにクラス発表を実施する。</li> </ul>	
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査での達成率は、知識・技能が約66%、思考・判断・表現が約44%であった。</li> <li>数量の基本的な計算力や基礎知識に課題がある生徒が約16%、文章題の題意や要点を読み取ることに課題がある生徒が約25%いる。</li> <li>振り返りテストやシートから、既習事項の理解度が高く応用的な考え方が身に付いている生徒が約30%ほどみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考える手順や模範的な解答を板書で示し、生徒間の解答確認や教え合いの時間を毎時間で確保する。</li> <li>ワークシートが終わった生徒には、副教材の演習問題を解かせ、授業内容の理解と定着を図る。</li> <li>各単元の学習内容の振り返りテストを実施し、理解度に課題がある生徒に演習プリントを出し、達成率を80%以上を目指す。</li> </ul>	
(外国語)	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査等の結果での達成率は、知識・技能が50%、思考・判断・表現が60%であった。特に、読む力や時間内に読み切る力に課題があり、長文問題の質疑応答や、全体の内容を捉える正答率は全体の4割ほどである。</li> <li>英作文では、既習内容の間違いではなく、日本語を英語にした形での記入をしてしまったり、英単語のつづりを誤ってしまうなどの誤答が見られる。</li> <li>聞く・話す力の定着は、日々のペアでの会話や、スピーキングテスト等の結果から約8割の生徒が定着していると考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の内容やその他のリーディング活動においては、時間内に解く練習を行う。また、日ごろから単語の練習をたくさん行い、一回一回単語を調べなくても本文や問題を理解できる力をつけていく。</li> <li>英作文を書く時間を毎授業の最後に設け、達成率70%以上を目指す。</li> <li>既習内容を用いてペアやグループで多く話す時間を毎授業に設定し、演習問題での達成率70%を目指す。</li> </ul>	
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査、小テスト等において、地理的分野での日本の地域区分や気候区分に関する知識及び技能の観点でBの生徒が60%と課題が見られる。</li> <li>授業ワークシートの記述から資料を読み取り、記述することに課題がある生徒が約3割見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元の学習内容で日本の地域区分や気候区分に関する振り返りを2回以上取り入れた授業を行い、今後の定期考査や小テストで定着度を確認し、知識・技能の観点でBの生徒を70%にする。</li> <li>各単元の学習内容で、資料を読み取り、記述する場面を3回以上設定し、課題の達成率を8割以上を目指していく。</li> </ul>	
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験から分かったことをことを考察として文字として表現することに課題が見られ、考察のA評価は10%である。</li> <li>計算を伴う課題解決の場面に課題が見られる。小テストでは、思考判断表現を問う問題の正答率が30%と低く、文章題などが苦手であることが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理科の見方・考え方の視点から考察が書けるように、実験結果との関連付けを丁寧に行うことで、B評価の考察の半分をA評価にして、A評価20%以上を目指す。</li> <li>計算練習を継続的に行い、計算のイメージができるように、視覚的な情報と結び付けて指導する。計算問題の正答率を20%上げる。</li> </ul>	